

外来リクヒモムシの拡散防止と分布情報収集のお願い

小笠原諸島の一部には外来リクヒモムシが侵入し、ワラジムシ類等土壤動物相に甚大な被害をもたらしている。現在、検出や駆除等防除技術が確立されていない状況であり、分布の把握と侵入の早期発見を図る必要がある。まずは属島上陸者がリクヒモムシの特徴を把握し、日頃から未侵入域に持ち込まないよう注意するとともに、発見した場合は直ちに関係者内で共有されるよう、必要な情報を以下に整理する。

外来リクヒモムシの特徴

【基本情報】

- ・**体長2mm～6cm程度**。陸生のヒモムシ類（紐型動物門）の1種。従来、オガサワラリクヒモムシ *Geonemertes pelaensis* と呼ばれていたが、生態的特徴からこれとは別種の可能性が高いとされる。
- ・80年代初めに父島、90年代半ばに母島に侵入。**父、母、兄島の広域と弟島北部**で確認されている。
- ・ワラジムシ類のほか、ヨコエビ類、クモ類、昆虫類など節足動物を広く捕食し、土壤動物相に壊滅的被害をもたらす。
- ・水中や樹上でも確認されることがあるが、湿った林床の倒木や石の下や裏で発見される場合が多い。
- ・外来プラナリア類と同様、**お酢や消毒用アルコール等の噴霧や冷凍**により死亡する。そのため未侵入の属島への出発前だけでなく、既侵入域から未確認域への移動前にも消毒できるとよい。



【ヒモムシに似る土壤動物（例）】

※プラナリア類には非常に似る種もあるが、貝食性種も含まれる外来種のため要通報。



外来リクヒモムシの見つけ方

- ・ヒモムシ生体に加え、卵のうや捕食されたワラジムシ類の死骸等の痕跡がないか注意する。
 - ・陸産貝類と似た湿潤環境を好むため、調査時にヒモムシもいないか留意する。
 - ・人や物資への隨伴により侵入する可能性があることから、上陸地点や作業地点などで空き時間に周囲の倒木や物資の裏などを確認する。

(参考) モニタリング業務の例 | 環境省業務内で兄島で調査した際は、温潤環境複数地点で「1地点10m×10m範囲内を5分間目視探索（倒木や石の下を重点的に探索）」を基準とした。



湿った林床にある倒木や石の下に多い



倒木の下に潜むヒモハシ



卵のう | 3~5mm程度。膜内に数十個の卵。



ワラジムシ類の死骸 | 全身が残り、中身が空で白色。消化管が黒い線として残る。ヒモムシの粘液がまとわりつく。

発見時の対応

・未確認域でヒモムシらしきものを発見した場合は、写真と発見地点情報を記録し、速やかに通報する。

○通報先

環境省 小笠原自然保護官事務所
(小笠原世界遺産センター内)
TEL **04998-2-7174**
(休日・夜間 090-1500-0742)
✉ RO-OGASAWARA@env.go.jp

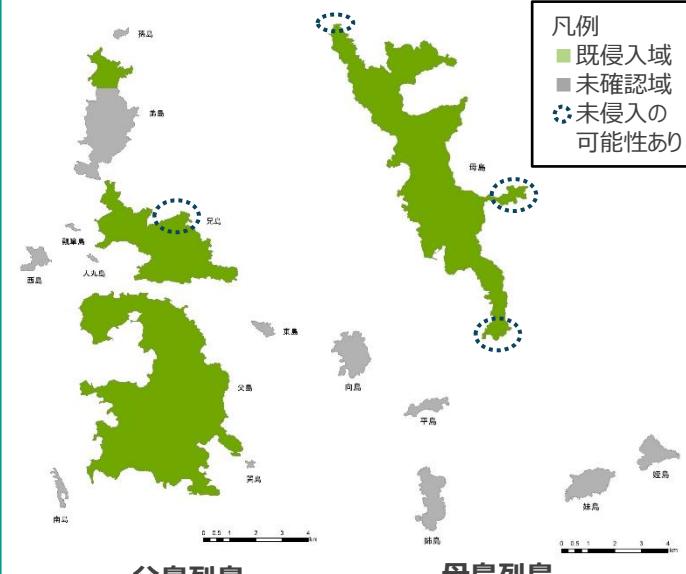
○通報時に伝える事項

- ① 通報者の名前・所属(詳細は公表しません)
 - ② 発見日時
 - ③ 場所(島名と地域名)
 - ④ 写真、GPS情報等の有無
 - ⑤ 発見状況(周囲の環境、個体数、個体の大きさなど)

※写真やGPS情報があれば、電話連絡の後に
メール送付をお願いします。

※業務請負者が発見した場合、環境省と共に
発注者（現地事務所）に右通報します。

外来リクヒモムシ侵入確認島しょ・エリア



※智島列島では全島で未確認

〈作成〉 環境省小笠原自然保護官事務所（2025年6月） 〈写真提供〉 自然環境研究センター 森 英章、吉野 広軌

〈引用文献〉

Shinobe S, Uchida S, Mori H, Okochi I, & Chiba S (2017) Declining soil Crustacea in a World Heritage Site caused by land nemertean. *Scientific Reports* 7: 12400.

Yoshino H (2025) Current distribution and field observations of the invasive land nemertean, *Geonemertes* sp., and some isopods in the Bonin (Ogasawara) Islands. *Ogasawara Research* 51: 45-56.